

【一口メモ】

標本数 n で割る代わりに自由度 $n-1$ で割って、『不偏分散(unbiased variance)』という値にすると、標本データから母集団の分散を推定するのに使えます。よく、医療統計で用いられていますね。

$$V = \sigma^2 = \frac{\text{データの偏差平方和}}{\text{データ数}-1} = \frac{(X_1 - \bar{X})^2 + (X_2 - \bar{X})^2 + \dots + (X_N - \bar{X})^2}{N-1}$$

これをルートすると、S.D.になります。

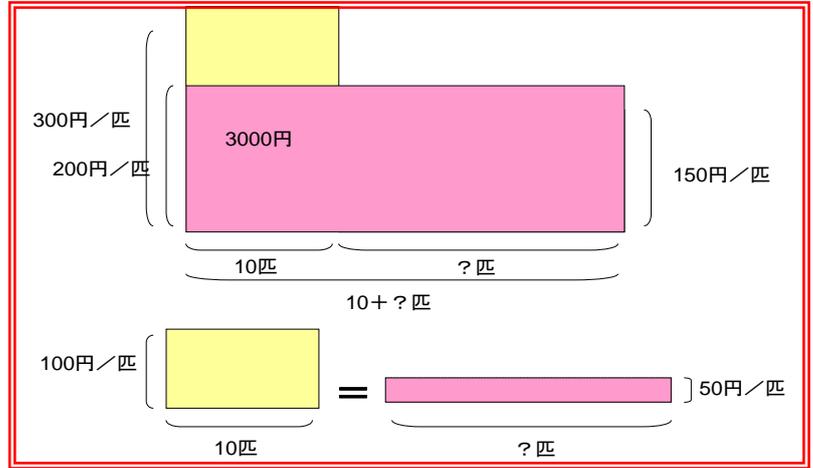
【町田】

この項次号へ

◀前号の問題は出来ましたか？

答えは、30匹です。

考え方は図のとおりです。▶



この本は、

七つ森書館 から発売されています。

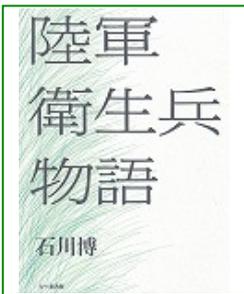
Tel: 03-3818-9311,

Fax: 03-3818-9312

Email: nanatsumori_mail@pen.co.jp



「石川さんですね?…私、麗子よ」 今、甦る「失われた青春の一頁」!



『第1章 青春 失われた青春のひとつま…私は帯広市西二条に九階建ての内科脳外科を標榜する帯広第一病院の検査技師長であった。こうして病院の検査業務に従事していたのも、軍隊で衛生兵としての勉強が役立っているからである。…終戦の翌年、中国南部から帰還し、北海道農業協同組合連合会帯広厚生病院で二十八年間勤務し、満五十五歳でこの年の十一月定年となり…』

氏は、定年後すぐに、第一病院で働くこととなった。
『私も定年者と言われぬよう、今日も仕事を始めていた。すると問もなく電話が鳴り、看護婦詰め所からの連絡と思い、分析中の手を休めて受話器を取った。その耳元に甘い優しい声が聞えてきた。
“石川さんですね?…私、麗子よ”…遠い思い出の音が囁きかけてきた。』

頭をよぎるあの想い出…出征の日、雪が残る3月の帯広駅…『…駅の入り口を振り向くと、いつの間に来たのだろうか、赤いコートに身を包んだ麗ちゃんが立っていた…』

“忘れるものか…”この”陸軍衛生兵物語”の筆者、石川 博氏が捧げた<失われた青春のひとつま>である。

石川氏は、大正8年北海道標茶町に生まれ昭和15年に召集され、衛生兵としてその身を国に捧げた一人である。活躍の場は、台湾、中国広東省、仏領インドシナにまでおよんだ。その後、潮州に療養所を開設するにあたり、最前線におもむきマラリア患者やコレラ患者をはじめ負傷者の看護に費やした。昭和20年8月15日、支那大陸広東省地区の海岸線にアメリカ軍を迎え撃つべく<渡された1本の槍>を手に終結した…とある。

「衛生兵」は検査技師の前身であり、はじめは「看護兵」とされていた身分である。

「 醫第二九五號 看護兵教程別冊ノ通検定ス、大正四年醫第一五二號及大正十三年醫第五四號ハ之ヲ廃止ス、昭和三年十二月十二日 陸軍省醫務局長 山田弘倫 」が、昭和7年9月30日に「本書中看護兵トアルヲ衛生兵ト改称ス」とされ、衛生兵として出発した。

その衛生兵(看護兵)教程は、“第1編 衛生兵の本分”にはじまり、人体の構造及びその作用、外傷及び疾病の救護法、器械・材料の消毒法、出血処置及び止血法、主要伝染病の解説、更に、按摩法、マッサージの方法と所謂「医療行為」までも詳細に記載されている。

終戦後、医師、看護師などとの業務が整理され現行の業務体系となっているが、現在、医療行政は「医師不足」を理由にコメディカルや事務職による「医療行為」を求めている。その枠組みさえ変化させようとしているかに感じられる。この氏の物語を読むと、医療に携わる者としての本来あるべき姿を再認識させてくれる思いがする。非常に貴重な味わい深い著作である。

氏は、検査技師の法律制定に向けて、検査技師会の前身である“細菌技術者協会”を創り、衛生検査技師の誕生に奮闘した人でもある。今、臨床検査技師があるのは、このような先輩の存在と努力なしには考えられないのである。

『それもこれもみんな夢の一こまである。最後まで胸に抱き続けた麗ちゃん…電話の声を最後としてその消息はわからない。』…この物語は、衛生兵として、検査技師として活躍された氏の“愛の物語”ともいえる。 【高田】